

# JFTP NEWS

Japan's Friendship Ties Programs



来日したスタッフを空港で出迎えたソナムさん(中央)▶

## Empowering Global Talent



日本で働く外国人を支えるJENESYS同窓生

2026  
02

01. JENESYS SAARC 2016 ソナム・ツェリンさん (ブータン)
02. JENESYS ASEAN 2022 ナダ・アフィファー・ラマダンティさん (インドネシア)

【JFTP PRESS】

カケハシ同窓生 マッシュー・サンチェスさん、Forbes 30 Under 30に選出!!

ISSUE  
20  
No.



# ソナム・ツェリンさん

ブータン

Mr. Sonam Tshering

JENESYS

- ・ みとうメディカル株式会社 外国人担当責任者 人事・総務部
- ・ 2016年度JENESYS SAARC参加者（エネルギー）
- ・ 参加当時：社会人

## JENESYSが開いた介護業界への道

### 経験活かし外国人職員をサポート

私が働く「みとうメディカル株式会社(本社：大阪府大阪市)」は、職員約400人のうち60人ほどが外国人です。出身国はベトナム、フィリピン、インドネシア、中国など様々で、外国人職員同士の交流も活発です。

私は介護スタッフとして働き始め、現在は外国人職員の責任者を務めています。初めて日本に来るスタッフが働きやすいよう、空港の出迎え・ビザ申請や役所手続きの手伝い・住居探しなどを担当しています。私自身、日本に住み始めたころは日本語がうまく話せず、ホームシックで涙を流したこともありましたが、自分の経験を活かして職員をサポートするこの仕事に、とてもやりがいを感じています。

### JENESYSが日本に住むきっかけに

日本に住んで8年近くになりますが、初めて日本を訪れたのはJENESYSのときでした。当時はブータンでボーイスカウト関連の仕事をしていて、現地で日本の小学生を受け入れたことから日本に興味を持ち、独学で日本語を勉強しました。JENESYSで特に印象に残っているのは、私がバスに携帯電話を忘れてしまったときに、コーディネーターがわざわざブータンまで携帯を送ってくれたことです。そうした日本人の優しさに触れて、また日本に

戻りたいと強く思いました。

JENESYSに参加した4か月後、私は東京の日本語学校に入学しました。JENESYSに参加していなかったら、日本語の勉強は続けていたとしても、日本の日本語学校に入学してまで勉強す

◀ JENESYSに参加したときのソナムさん(左)

ることはなかったと思います。学校に通いながら介護施設で清掃のアルバイトをしたことで、困っている人を助ける介護業界に魅力を感じ、その後に福祉の専門学校で学びました。

### 海外人材と日本をつなぐ未来へ

そしてご縁があって、2021年からみとうメディカルで働き始めました。みとうメディカルは外国人職員が困ったときに相談しやすい雰囲気があります。だからこそ、様々な国出身の職員が居心地よく一緒に働いているのではないかと思います。

私自身も、職場のサポートを受けてビザを更新し、今では「技術・人文知識・国際業務ビザ」で専門的な仕事をする事ができています。将来は、これまでの経験を活かして外国人材関連の事業を立ち上げ、海外と日本をつなぐ仕事ができたらと夢見ています。



▲ みとうメディカルで働く外国人職員と一緒に(前列右から2人目がソナムさん)





インドネシア

# ナダ・アフィファー・ラマダンティさん

JENESYS

Ms. Nada Afifah Ramadhanti

- ジェックスプランニング株式会社 人材事業部（通訳・翻訳担当）
- 2021年度JENESYS ASEANオンライン（日アセアン・東ティモール交流）、2022年度JENESYS ASEAN招へいプログラム（日ASEAN開発協力の歩み）参加者
- 参加当時：大学生（2021年度）、社会人（2022年度）

## 日本への情熱が導いたキャリアの転機

### 日本を体験した2つのプログラム

大学で日本文学を学んでいたとき、2021年度のJENESYSオンラインプログラムに参加しました。オンラインながら、日本やアジア各国の参加者と交流する中で「いつか日本に行きたい」という思いがさらに強くなりました。

その後、2022年には特定非営利活動法人NICEの環境ボランティアに参加し、初めて日本を訪れました。滞在先は大阪で一人暮らしをしているおばあちゃんの家でした。私は祖母を早くに亡くしたので、「おばあちゃんがいたらこんな感じかな」とうれしい気持ちになったことを覚えています。この経験が、後に介護職を選ぶ大きなきっかけになりました。

同じ2022年度には、念願だったJENESYSの招へいプログラムにも参加する機会を得ました。訪問した大分県の立命館アジア太平洋大学（APU）はインドネシアでも有名です。留学生に「なぜ日本で勉強しているの？」と尋ねたり、逆に「なぜJENESYSに参加したの？」と聞かれたり、互いの想いを語り合う充実した時間を過ごすことができました。



留学生に「なぜ日本で勉強しているの？」と尋ねたり、逆に「なぜJENESYSに参加したの？」と聞かれたり、互いの想いを語り合う充実した時間を過ごすことができました。

▲ 介護職を選ぶきっかけくれた大阪のおばあさんと、今も交流を続けている

### 日本語への情熱が移住の決め手

中学生の時に日本のアニメ「HUNTER×HUNTER」を見て、漢字が読めるようになりたいと思い、独学で日本語を勉強し



▲ JENESYSで訪れたJICA地球ひろばにて

始めました。高校生の時に、国際交流基金の「日本語パートナーズ」事業で派遣された先生が学校に赴任したおかげで、日本人から直接日本語を学ぶこともできました。それでも、大阪でボランティアに参加したときは、関西弁がうまく聞き取れずに苦労しました。この経験から日本語をもっと上達させたいという思いが強まり、日本で働くことを決意しました。

そして2023年10月から、私は鳥取県の特別養護老人ホームで働き始めました。全介助が必要な高齢者の方々のお世話は正直大変でしたが、皆さんと過ごす時間はとても楽しかったです。働きながら、JENESYSのつながりで大阪・関西万博のASEANパビリオンでボランティアとして活動することもできました。JENESYSの他のプログラム同窓生や、様々な国の人とつながることができて、とても素晴らしい経験ができました。

### 経験を活かし介護職を支える側に

2026年2月から、私は新しいキャリアに進むことになりました。これまでの経験を活かし、日本の介護分野で働くインドネシア人をサポートするポジションで働くことになりました。ジェックスプランニング株式会社（本拠地：岡山県岡山市）は、これまでベトナムに拠点がありましたが、新たにインドネシアでもビジネスを展開するため、私が最初のインドネシア人スタッフとして採用されました。私自身が日本で働き始めた頃、相手の日本語が聞き取れても、自分が日本語をうまく話せず苦労したので、特にコミュニケーションの部分でサポートしたいと考えています。これからも大好きな日本に住みながら、自分と同じように日本で頑張るインドネシア人を支えていきたいです。

▼ 大阪・関西万博でASEANパビリオンのボランティア仲間と一緒に





## マシュー・サンチェスさん(2025年度カケハシ参加者) 世界の注目を集める若手起業家として、 Forbes 30 Under 30に選出！

2025年度カケハシ・プロジェクトに参加した、マシュー・サンチェスさん (Matthew Sánchez) が、グローバルビジネス誌Forbes (米国版) が毎年選ぶ注目の若手リーダー「Forbes 30 Under 30」に選ばれました。マシューさんは自ら立ち上げた香水ブランド「MATTEO PARFUMS」を「アメリカでNo.1の香水ブランドにしたい」と夢を語り、日本文化にヒントを得た香りの開発を進めています。

### ■ キャリアへの葛藤から香りの道へ

マシューさんはカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) で応用数学と化学を専攻し、卒業後は銀行業界で働きました。しかし、「私は左脳と右脳の両方を使う人間。銀行の仕事で創造性を発揮する場はなかった」と当時を振り返ります。ある雑誌で読んだ調香師のインタビューで『香水は真のアートで、サイエンスだ』という言葉に出会い、自らの進むべき道を見出します。

2017年10月、「MATTEO PARFUMS」を立ち上げましたが、次第に独学に限界を感じ、100人以上の調香師にメールを送ります。そのうちの一人、元シャネルの調香師が師匠として「技術的なスキルからビジネス戦略まで惜しみなく教えてくれた」といいます。

### ■ 多文化の物語を伝える革新性

MATTEO PARFUMSの最大の特徴は、全ての香水が2つ以上の文化を融合していること。父はメキシコ系、母はガーナ系アメリカ人で、多様な文化が交差する南カリフォルニアで育ったマシューさんは、「人々の記憶に深く結びつく"香り"で、世界中のあらゆる物語を人々に伝えたい」と考え、文化のエッセンスを香りで融合させる独自の香水を生み出してきました。

こうした革新性が評価され、2024年にL'OrealのInclusive Beauty Fundから支援を獲得。現在は北米や欧州を中心に世界15か国で事業を展開しています。

### ■ 日本の香りと運命の出会い

2025年10月、マシューさんは米国ラテン系若手リーダーとして、カケハシ・プロジェクトで初めて日本を訪れ、運命的な香りと出会います。「金木犀の香りに恋に落ちました」。アメリカには銀木犀しかなく、香りも控えめだといいます。「京都の香道や、ほうじ茶や紫蘇の香りなどからも多くのアイデアを得ました」。

同年12月にロサンゼルスで行われたカケハシ・プロジェクトの報告会で、日本から着想を得た香水のコンセプトビジュアルを披露。「より多くの人にこの素晴らしい香りを届けたい」と語り、日本への販路拡大にも意欲を示しています。

### ■ 世界が注目する若手リーダーとして

充実の日本体験から約2か月後、Forbes誌の「Forbes 30 Under 30」小売り・EC部門で、業界をリードする若手起業家の一人に選ばれました。「何万人も候補がいる中で選出率はわずか2%ほど。信じられませんでした」。選出理由を、「私たちの香水は従来の常識を覆すもの。液体のアートであり、様々な文化の橋渡しだからです」と分析します。今後について、「アメリカで最も売れる香水ブランドになりたい。いつか東京の美しい通りに私のブランドの店舗を見かけることができれば、素晴らしいですね」と語ります。その夢は、もう遠くない未来の話かもしれません。



▲ カケハシ・プロジェクトで来日し、京都や東京で日本の香りを体験したマシューさん

写真(右)は日本の金木犀から着想を得た、MATTEO PARFUMSの「GOLDEN KINMOKUSEI」ビジュアルイメージ



一般財団法人日本国際協力センター (JICE) は、主に日本国政府や地方自治体、企業からの依頼に応じ、世界各国の社会開発課題に資する人材育成のお手伝いや日本についての理解を促進する事業を展開しています。

JFTP News 第20号 2026年2月27日発行

編集・発行：一般財団法人日本国際協力センター (JICE) 国際交流部  
EMAIL: kokusaikoryu@jice.org

JICEについて詳細はHPをご覧ください。  
<https://www.jice.org>

●本誌掲載の記事、写真などの無断転載を禁じます。  
©2026 JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION CENTER

